

施策番号	0203		
施策名	すべての市民がいきいきと活動できる取組の推進		
概要	すべての市民が、いきいきと活動できる場所と機会を提供するとともに、自分にあった働き方を見つけられ、安心した生活ができるよう、能力向上のための支援や経済的支援などの施策展開を図る。		
担当局・部室	文化市民局・共生社会推進室	共管局・部室	
上位政策	2 人権・男女共同参画		
施策に関する 主な分野別計画等			

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		平成 30年度	令和 元年度	令和2年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	京都労働学校受講生の満足度(点)	b	b	4.3	4.3	5.0	86.0%	b	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
客観指標総合評価		b	b					b	

2 市民生活実感評価

設問		平成 30年度	令和元年度							令和 2年度 ※
			評価	そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数	
1	いきいきと活動して自分の能力を発揮する場所や自分に合った働き方を見つける機会がある。	c	c	29	129	315	125	82	680	-
				4.3%	19.0%	46.3%	18.4%	12.1%		
2	-	-	-							-
3	-	-	-							-
4	-	-	-							-
5	-	-	-							-
市民生活実感調査総合評価		c	c							-

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査を一時休止しています。

<総合評価>

平成30	B	令和元	B	令和2	B	施策の目的がかなり達成されている
重 み 付 け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	市民の実感は、国や府の施策を含めた雇用労働関係行政全般の影響を受けるものであるが、本施策はその一部である勤労者福祉施策であることから、客観指標総合評価を重視することとする。				
	<input type="checkbox"/> 市民の実感					

<原因分析>

客観指標総合評価

- ☒ b 評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。
☐ c 評価以下であり、次の原因が考えられる。

市民生活実感調査総合評価

- ☐ b 評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。
☒ c 評価以下であり、次の原因が考えられる。
・長時間労働などの課題があることや、自分の能力を発揮する場や自分に合った働き方のできる機会が必ずしも十分でないと感じている方が一定数いるため、c 評価以下で推移していると考えられる。

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>（令和元年度又は令和2年度新規事業）

	事業名	事業費の状況(千円)		令和2年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		令和元年度 決算額	令和2年度 予算額		
1					
2					
3					
4					
5					

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・京都労働学校において、社会情勢や働く方々のニーズに対応した講座の実施に努めるとともに、京都市・働く人の情報サイト「さわやかわーく」において勤労者や働く意欲を持つ方に役立つ情報を発信し、引き続き、能力向上の支援に努め、いきいきと活動できる場所や働き方を見つける機会の増加を図っていく。

施策名	0203	すべての市民がいきいきと活動できる取組の推進				
指標名	京都労働学校受講生の満足度(点)					
担当課	共生社会推進室		連絡先	2 2 2 - 3 0 9 1		
1 指標の説明						
京都労働学校受講生へのアンケート調査の結果						
2 指標の意味			3 算出方法・出典等			
勤労者の教養と自覚を高めるための京都労働学校の講座等に関する満足度を示す指標			算出方法：京都労働学校受講生へのアンケート調査結果(5段階評価) 出典：事業担当調べ			
4 数値						
	前回数値 平成30年度	最新数値 令和元年度	推移	目標値		
				数値	根拠	達成度
数値	4.3	4.3	増減なし	5.0	最高満足度	86.0%
	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値	-			-		
5 評価基準			6 基準説明		7 評価結果	
最新数値の目標値に対する達成度が a：90%以上 b：80%以上90%未満 c：70%以上80%未満 d：60%以上70%未満 e：60%未満			最高満足度を目標とするため、90%以上をa、以下10%刻みで基準を設定した。		平成30令和元令和2	
					b b b	